

(2) 久慈川の自然地

久慈川流域の地形・地質および気候などの独自の自然条件により、現在の久慈川は樹林、竹林、草地、池沼、砂州や瀬や淵など多様な自然環境を形成している。久慈川の多様な自然環境の中でも、特にまとまった規模で、多くの生物の生息・生育環境となる重要な場所、あるいは久慈川の特徴的な環境が良好な状態で保全されている場所など、中・下流部における久慈川の主な自然拠点について、以下に記述する。

1) 富岡橋上流地区(常陸大宮市)

上流区間(21~31km)の河床勾配は約1/750、河床材料は粒径18mm程度の粗礫で構成され、川の中には複列の砂州が発達し、瀬と淵が連続している。

常陸大宮市辰ノ口から富岡橋までの区間は、河川中流域に特徴的な砂礫河原が発達し、中州や砂州が形成されている。河川沿いには水害防備林の竹林が広がり、上流部の瀬と淵の連続する河川環境と共に清流久慈川の景観を形成している。

砂礫河原には植物の侵入が少なく、砂礫地で繁殖するチドリ類の繁殖地となっている。また、この区間の瀬は、河床の砂礫の大きさがアユ、ウグイの産卵に適した場所となっている。その一方で、河原には釣り等のレジャーのための乗用車の乗り入れも見られる。

富岡橋上流地区(常陸大宮市)の位置▶



富岡橋上流地区(常陸大宮市)の状況

(平成15年11月撮影)